

# 平成5年の病害虫の発生と防除

## 農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

### I 夏作期間の気象経過の概要と農作物被害

冬期間は全国的に高温、記録的な少雪。3月に入って強い寒気が南下し東・西日本で気温が下がった（寒の戻り）。4月は、上旬後半から中旬前半にかけて強い寒気が入り、全国的に冷え込んだ。下旬の降水により西日本では少雨の状態がやや緩和されたものの、東・北・東部から中部地方にかけては月降水量が平年の30~50%とかなり少なかった。5月は、天気は周期的に変わり、一部の地方を除いて晴れの日が多かった。時々寒気が入って気温の低い時期があったが、真夏並みの暑さとなる日もあった。関東と東海の少雨は3月から続くが、九州は曇りや雨の日が多かった。6月は、北日本と北陸では低温と日照不足が顕著だった。西日本では中旬以降梅雨前線の活動が活発化し、特に九州では連日の大雨。7月は、日照時間は平年の50~70%で、下旬には台風が相次いで西日本に上陸し、かなりの多雨。九州南部、四国、関東では月降水量が平年の3倍に達したところがあった。月平均気温はかなり低かった。8月は、北日本は著しい低温、東・西日本は著しい低温・多雨・寡照となった。9月は、東・西日本では曇りや雨の日が多かった。北日本では天気はほぼ周期的に変わったが、天気のぐずつく時期があった。残暑はほとんどなく、気温が平年を上回ったのは中旬の一時期だけだった。東・西日本では気温の

低い日が多かった。

梅雨入りは、沖縄から東・北・東部まで、平年に比べて10日前後早かった。特に九州南部は平年より16日早く梅雨入りした。梅雨明けは、沖縄と奄美はともに6月25日であった。その他の地方は、「梅雨明けと言える明確な境目がないまま、季節が進んでいる」状態が平年の夏の盛りを過ぎる頃までも続いたため梅雨明け日が特定されなかった。過去に梅雨入りの日が決まらなかった年はあるが、梅雨明けの日が決まらないのは今年が初めてである。

主な農作物被害は、7月の北海道南西沖地震に伴う、地震、津波、液状化現象、西日本における梅雨前線豪雨、8月豪雨、全国的な顕著な低温、日照不足、台風第4、5、6、7、13号の相次ぐ襲来等による被害が発生した。

10月15日現在の水稻の作柄は、沖縄は「やや良」、東海及び近畿は「不良」、北海道、東北、北陸、関東・東山、中国、四国及び九州は「著しい不良」で、全国平均では作況指数75の「著しい不良」、10a当たり収量は373kgが見込まれている。

### II 病害虫の発生と防除の概要

水稻のいもち病は、北海道は6月以降生育期間を通じた低温経過により葉いもちが少発で、穂いもちの進展も抑えられ、全道的に少発。沖縄は、稲作栽培期間を通じて好天経過で少発。北海道及び沖縄以外は「多」の発生であった。初発生は北日本では平年より遅く、西日本ではやや早めであったがその後の発生は緩慢で、強い低温により当初いもち病の発生は抑制的に経過したが、例年梅雨明けとともに起こる高温抑制がなく、全国的にいわゆる北日本型の発生様相を呈し8月以降も後期進展が著しかった。このため、全国的に葉いもちの発生面積が拡大するとともに穂いもちに移行した。都道府県から発表された発生予察情報は、北海道及び沖縄を除く45都道府県から、警報延べ31件、注意報延べ74件の計105件であった。紋枯病は、全国的に少発、西日本の一部で「やや多」の地域があった。稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温で曇雨天が続くなど発生に好適な天候経過を示した地域が多く、北・東日本の一部では「やや多」から「多」の発生となった。白葉枯病は、長雨、豪雨となった九州地方を中心に西日本で「やや多」から「多」の発生と

表-1 1993年梅雨の状況

	梅雨入り (平年日)	梅雨明け (平年日)
沖縄	5月3日 (5月11日)	6月25日 (6月23日)
奄美	5月1日 (5月11日)	6月25日 (6月28日)
九州南部	5月17日 (6月2日)	— (7月13日)
九州北部	5月29日 (6月8日)	— (7月18日)
四国	5月29日 (6月6日)	— (7月16日)
中国	5月30日 (6月8日)	— (7月19日)
近畿	5月30日 (6月8日)	— (7月19日)
東海	5月30日 (6月9日)	— (7月18日)
関東甲信	5月30日 (6月9日)	— (7月20日)
北陸	6月2日 (6月12日)	— (7月22日)
東・北・東部	6月3日 (6月12日)	— (7月23日)
東・北・東部	6月3日 (6月14日)	— (7月26日)

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 1993 in Japan. By Plant Protection Division, Agricultural Production Bureau, MAFF

(4月)

気温平年差(℃)

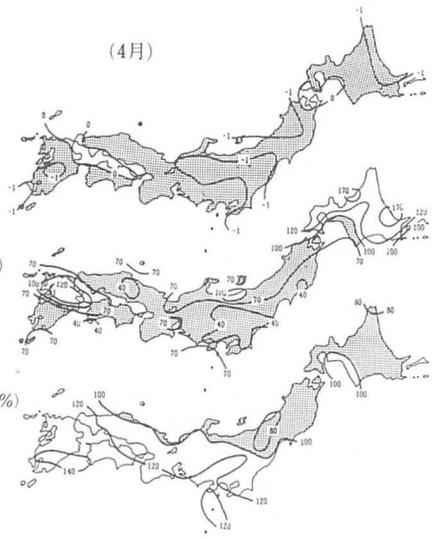
名瀬 -1.4  
那覇 -0.4  
石垣島 -0.2

降水量平年比(%)

名瀬 107  
那覇 37  
石垣島 124

日照時間平年比(%)

名瀬 104  
那覇 66  
石垣島 80



(7月)

気温平年差(℃)

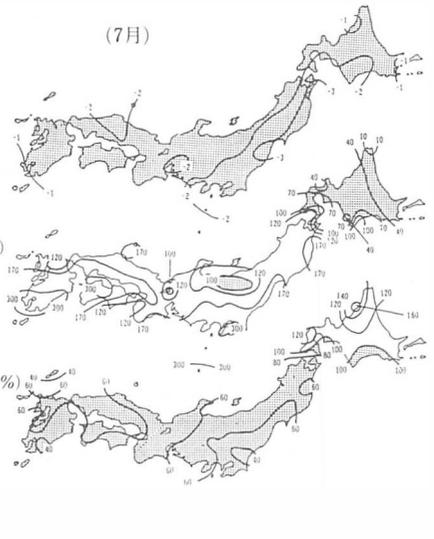
名瀬 0.2  
那覇 0.8  
石垣島 0.9

降水量平年比(%)

名瀬 120  
那覇 90  
石垣島 32

日照時間平年比(%)

名瀬 74  
那覇 87  
石垣島 107



(5月)

気温平年差(℃)

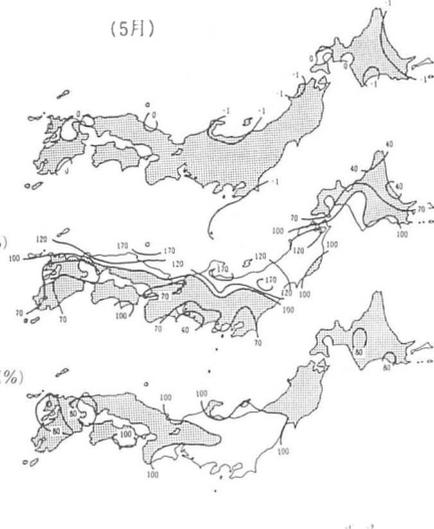
名瀬 -0.4  
那覇 0.8  
石垣島 0.3

降水量平年比(%)

名瀬 138  
那覇 106  
石垣島 26

日照時間平年比(%)

名瀬 88  
那覇 120  
石垣島 134



(8月)

気温平年差(℃)

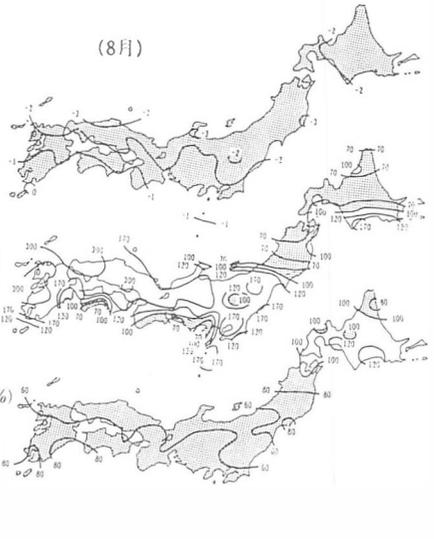
名瀬 -0.1  
那覇 0.8  
石垣島 0.8

降水量平年比(%)

名瀬 88  
那覇 16  
石垣島 28

日照時間平年比(%)

名瀬 116  
那覇 114  
石垣島 126



(6月)

気温平年差(℃)

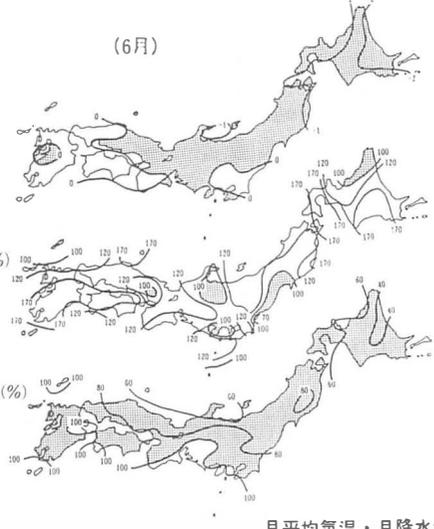
名瀬 0.8  
那覇 0.8  
石垣島 0.6

降水量平年比(%)

名瀬 85  
那覇 45  
石垣島 29

日照時間平年比(%)

名瀬 135  
那覇 97  
石垣島 98



(9月)

気温平年差(℃)

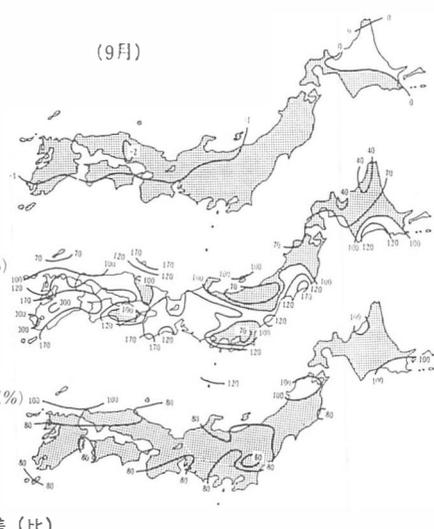
名瀬 -0.5  
那覇 0.3  
石垣島 0.0

降水量平年比(%)

名瀬 123  
那覇 110  
石垣島 99

日照時間平年比(%)

名瀬 102  
那覇 99  
石垣島 111



月平均気温・月降水量・月日照時間の平年差(比)

## 病害虫別発生・防除状況 (平成5年10月1日現在)

(単位: 千ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備考
(イネ)				
葉いもち	北海道、沖縄で少, その他の地域は多	959(211)	2,383(125)	北海道低温, 沖縄好天, その他, 低温, 長雨, 日照不足
穂いもち	北海道、沖縄で少, その他の地域は多	903(263)	3,666(139)	
紋枯病	一部地域でやや多の他, 全国的に少	815(91)	1,644(93)	長雨, 豪雨, 台風等による影響
白葉枯病	西日本を中心にやや多〜多	80(150)	30(148)	
縞葉枯病	やや少〜少	86(79)	—	
ばか苗病	北・東日本の一部で多の他は平年並以下	42(43)	1,776(108)	
もみ枯細菌病	やや少〜少	30(36)	70(72)	
稲こうじ病	北・東日本でやや多〜多, 西日本の一部でやや多	195(173)	38(81)	出穂期の低温, 降雨
ニカメイガ	近畿を始め, 一部地域でやや多	330(96)	868(94)	越冬密度が高い
セジロウンカ	飛来数は多, 発生は北陸, 九州でやや多〜多	1,091(155)	1,670(113)	梅雨前線の停滞等
トビイロウンカ	飛来数は多, 発生は南九州でやや多	300(130)	1,322(112)	早期多飛来
ヒメトビウンカ	平年並以下	690(98)	1,339(105)	
ツマグロヨコバイ	東北でやや多, その他の地域はやや少〜少	788(81)	1,290(101)	
イネドロオイムシ	一部地域でやや多	382(157)	768(103)	低温
斑点米カメムシ類	一部地域でやや多の他, 平年並以下	257(88)	1,306(99)	
コブノメイガ	関東以西でやや多〜多, 特に九州で多	598(188)	732(177)	異常多飛来
イネミズゾウムシ	一部地域でやや多〜多の他は平年並	1,143(85)	1,080(106)	暖冬
(ムギ類)				
さび病類	北陸, 近畿, 中国の一部でやや多の他少	40(129)	63(91)	
うどんこ病	北海道, その他一部地域で多の他は平年並以下	95(104)	206(100)	
赤かび病	少	75(103)	210(80)	
雪腐病	少	47(96)	85(88)	暖冬少雪
雲形病	北陸でやや多〜多, その他の地域は少	4(80)	3(150)	
(ジャガイモ)				
疫病	一部地域でやや多〜多	42(98)	425(110)	長雨
(ダイズ)				
紫斑病	一部地域でやや多の他はやや少〜少	7(175)	43(90)	
ハスモンヨトウ	少	13(50)	31(50)	
ハダニ類	やや少〜少	7(33)	5(83)	
アブラムシ類	一部地域でやや多の他はやや少〜少	30(68)	40(56)	
(カンキツ類)				
そうか病	やや多〜多	23(110)	94(100)	} 長雨, 豪雨
黒点病	中国, 四国, 九州で多, その他の地域も平年並以上	93(129)	374(119)	
かいよう	九州で多, その他の地域も平年並以上	25(93)	87(123)	
ヤノネカイガラムシ	平年並以下	7(100)	101(98)	
ミカンハダニ	関東, 沖縄でやや多, その他の地域はやや少	65(87)	257(84)	
(リンゴ)				
腐らん病	東北の一部でやや多	9(100)	73(101)	
モニリア病	青森で多の他は少	52(520)	72(101)	
斑点落葉病	関東, 北陸の一部でやや多, 東北は平年並	24(109)	410(105)	
黒星病	一部地域で多, 青森では特異的多発	30(500)	353(113)	
ハマキムシ類	少	4(80)	221(100)	
ハダニ類	やや少	11(85)	124(88)	
(ナシ)				
黒斑病	東北で少, 東海で平年並, その他の地域でやや多〜多	5(125)	68(72)	
黒星病	四国, 九州で平年並, その他の地域の一部でやや多	4(80)	154(109)	
ナシヒメシキイ	平年並以下	1(100)	47(100)	
ハダニ類	一部でやや多の他はやや少〜少	6(86)	48(107)	
アブラムシ類	平年並以下	8(80)	53(102)	
(モモ)				
せん孔細菌病	一部地域でやや多	3(100)	26(108)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備考
灰星病 (ブドウ)	一部地域でやや多	2(100)	48(98)	
晩腐病	関東, 東海, 四国で平年並以下, その他の地域の 一部でやや多～多	3(150)	61(103)	
べと病	やや多～多	8(133)	81(116)	
灰色かび病 (カキ)	北日本, 北関東, 北陸でやや多～多	3(150)	35(103)	
うどんこ病	一部地域でやや多～多	11(110)	60(109)	
落葉病類	一部地域でやや多	6(120)	56(110)	
カキクダアザミウマ (果樹共通)	東北, 関東, 北陸の一部でやや多	5(125)	21(100)	
カメモシ類 <sup>1)</sup> (チャ)	少	5(22)	71(66)	
炭そ病	西日本でやや多～多	33(138)	125(119)	
チャノコカクモンハマキ	一部地域でやや多の他は少	22(79)	71(91)	
カンザワハダニ (キュウリ)	一部地域を除いて平年並以下	27(77)	105(77)	
べと病	平年並～やや多	9(100)	64(107)	
うどんこ病 (スイカ)	西日本で平年並～やや多	7(88)	46(94)	
つる枯病 (ハクサイ)	平年並～やや多	4(80)	54(110)	
軟腐病	北海道で多の他は平年並以下	3(60)	28(88)	
白斑病 (キャベツ)	平年並	4(67)	33(100)	
黒腐病	中国の一部でやや多の他は平年並以下	9(150)	38(100)	
コナガ (タマネギ)	北日本を中心に一部地域でやや多	17(85)	69(83)	
べと病	一部地域でやや多	3(100)	30(115)	
ボトリチス属菌によ る葉枯病 (野菜共通)	一部地域でやや多の他平年並以下	12(240)	—	
疫病 <sup>2)</sup>	一部地域でやや多～多	9(180)	99(116)	夏秋トマトは全国的, その他は西日本中心
灰色かび病 <sup>3)</sup>	一部地域でやや多～多	9(113)	100(113)	トマトで多発
アブラムシ類 <sup>4)</sup>	一部を除いて平年並以下	68(91)	359(105)	
ハダニ類 <sup>5)</sup>	平年並以下	21(111)	95(104)	
ハスモンヨトウ <sup>6)</sup>	一部を除いて平年並以下	6(75)	22(100)	イチゴで一部地域でやや多
ヨトウガ <sup>7)</sup>	一部を除いて平年並以下	14(100)	101(91)	

<sup>1)</sup>:カンキツ, ナシ, カキ

<sup>2)</sup>:トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ

<sup>3)</sup>:トマト, レタス, イチゴ

<sup>4)</sup>:トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ

<sup>5)</sup>:ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ

<sup>6)</sup>:ナス, レタス, サトイモ, イチゴ

<sup>7)</sup>:ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ

なった。葉鞘褐変病は、北海道で「多」の発生となった。

セジロウンカ及びトビイロウンカは、梅雨前線の活動が活発で本州付近に停滞することが多かったこともあり、数次にわたる飛来があった。飛来量は多く、特に九州地域においては早い時期からトビイロウンカの飛来比率が高い傾向にあった。しかしながら、予防粒剤の普

及、その後の天候経過が増殖に好適ではなかったことから、増殖は緩慢で被害は多くなかった。本田での発生は、西日本の一部で「やや多」から「多」となった。ニカメイガは、暖冬の影響で越冬密度が高かった地域があるが、その後の低温で発生時期は遅れ気味で発生も抑制された。一部地域で「やや多」から「多」の発生となっ

た。コブノメイガは、ウンカ類とともに近年にない多飛来が観察され、東日本以西の一部で「やや多」から「多」、特に九州の一部では「多」の発生となった。イネミズゾウムシは、一部地域で「やや多」から「多」の発生となった。コバネイナゴが近年北日本を中心に増加傾向である。

水稲以外の作物では、カンキツの黒点病は全国的に「やや多」から「多」の発生であった。そうか病及びかいよう病は、西日本の一部で「やや多」から「多」の発生となった。りんごでは、黒星病は北日本の一部で「やや多」から「多」の発生で、特に青森県では過去に例をみないほど発生が多かった。斑点落葉病は、一部地域で「やや多」から「多」の発生であった。ナシの黒星病及び黒斑病が西日本の一部で「やや多」から「多」の発生となった。ブドウの灰色かび病、べと病及び晩腐病が一部地域で「やや多」から「多」の発生となった。

野菜では、果菜類の灰色かび病、うどんこ病、べと病、疫病が各地で「やや多」から「多」の発生となった。トマト葉かび病、スイカつる枯病、疫病、炭そ病、ネギさび病が一部地域で「やや多」から「多」。アブラナ科野菜のコナガが一部地域で「やや多」から「多」。特に北日本において早期より多発傾向だった。ネギ、タマネギのネギアザミウマ、ネギハモグリバエが一部地域で「やや多」の発生であった。

III 病害虫防除事業

1 ウリミバエ

奄美群島：奄美群島全域におけるウリミバエ根絶後は、同群島全域において侵入警戒調査を実施するとともに、徳之島、沖永良部島、与論島において不妊虫放飼による再侵入防止防除を10月まで実施した。

沖縄県：同県唯一のウリミバエ発生地域である八重山群島については、毎週9千万頭の不妊虫放飼による根絶防除を実施した結果、根絶が確認され、10月29日に植物防疫法施行規則の一部が改正された(10月30日施行)。

八重山群島の根絶をもって、我が国全域からウリミバエが一扫されたことになる。

なお、既に根絶を達成した沖縄群島、宮古群島及びウリミバエ根絶後の八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシ

平成2年に鹿児島県西之表市において発生が確認されたアリモドキゾウムシについては、緊急防除の省令によりアリモドキゾウムシの寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において誘殺剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

5 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビエロウムシ、ミカントゲコナジラミのそれぞれの天敵であるペダリアテントウムシ、ルビーアカヤドリコバチ、シルベストリコバチの増殖配布を前年に引き続き静岡、岡山、長崎の各県でそれぞれ実施した。

表-2 平成5年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況 (平成5年1月1日～9月30日)

(1) 警報・注意報(ゴシックは警報, 他は注意報, 数字は発表月日)

		①イネ					その他の病害虫
		葉いもち	穂いもち	セジロウンカ	トビイロウンカ	コブノメイガ	
北海道							7.21-葉しょう褐変病
東	青森	7.29	8.13				7.15-稲こうじ病  7.23-稲こうじ病
	岩手	7.22	8.2				
			8.17				
	宮城	7.21	8.3				
			8.10				
秋田		7.1	8.2				
		7.15	8.20				
	山形	7.23	7.29				
北	福島		7.22				
			8.5				
関	茨城		7.29				8.5-斑点米カメムシ類
			8.6				
	栃木		7.16				
			8.6				
	群馬		8.5				
			8.23				
	埼玉	8.5	8.5				
			8.20				
	千葉		8.9				
	東京		8.20				
東	神奈川		8.19				
	山梨	8.2	8.2				

関東	長野	7.20	8.5			
	静岡	7.28	7.28 8.17			
北陸	新潟		7.16 8.3			
	富山	7.19	7.19 8.2			
	石川		7.15 7.30			
	福井		7.16 7.27			
東海	岐阜	7.8	7.26 8.9			
	愛知	8.12	7.26 8.12 8.20			
	三重	7.7	7.20 8.6			
近畿	滋賀	7.7	7.23 8.5			
	京都	7.8	7.23 8.2			
	大阪		7.30 8.12			
	兵庫	7.12	8.17	7.22		
	奈良		7.13 8.5 8.10			
畿和歌山		7.14				
中国	鳥取	7.15	8.6			
	島根	7.6	7.19 8.5			
	岡山	7.15	7.28			
	広島	7.5	7.14 8.3 8.4 8.11 8.20			
	山口	7.6	7.20 8.5		8.17	
	徳島	7.28	7.28 8.20			
	香川	7.12	7.12 8.11			
	愛媛	8.3	8.3 9.1	7.15		
	高知	8.2	8.2 9.2			9.2-紋枯病
	九州	福岡	7.1 7.30 8.18			7.26
	佐賀	7.7 8.2		8.2	7.27	

九州	長崎	7.2	7.2 8.3 8.19			7.8 8.3
	熊本		8.5 9.2	7.9	7.9	7.9
	大分		7.22 8.6			8.2
	宮崎	5.24	8.3	7.5	7.13	7.26 8.17
	鹿児島		8.18	7.8	7.8	7.12 8.6

		②畑作物 (イネを除く普通作)	③果樹 (チャを含む)
北海道		6.25-コムギの赤かび病, 7.1-バレイシヨの疫病	
東北	青森 岩手 宮城 秋田 福島		5.28-リンゴの黒星病, モニリア病 6.30-リンゴの斑点落葉病 8.5-リンゴの黒星病 6.18-ブドウの灰色かび病 7.22-モモの灰星病
関東	埼玉 長野		3.9-チャのカンザワハダニ 5.14-リンゴの黒星病, 6.2-果樹のナミハダニ
東海	静岡		7.12-カンキツのミカンキイロアザミウマ
北陸	石川	4.28-ムギの赤かび病	
陸奥	福井		5.10-ウメのウメシロカイガラムシ
東海	三重		8.5-チャの炭そ病
近畿	京都 大阪 和歌山		8.25-ナシの黒斑病 8.3-ブドウのべと病 9.10-カンキツの黒点病
中国	鳥取 広島		5.19-ナシの黒斑病, 8.9-ナシの黒斑病 7.27-カンキツのかいよう病, 黒点病 8.11-ナシの黒斑病, ブドウのべと病 9.3-カンキツの黒点病, かいよう病
四国	香川 愛媛		6.29-果樹のカメムシ類, 8.4-カンキツの黒点病 5.10-キウイフルーツの花腐細菌病 8.20-カンキツの黒点病
九州	福岡		8.13-カキのフジコナカイガラムシ 8.27-カキの炭そ病
	長崎	5.10-バレイシヨの疫病	
	熊本 大分 鹿児島		8.3-カンキツのかいよう病, 黒点病 8.13-ブドウのべと病, 8.16-カンキツのかいよう病, 黒点病 8.4-カンキツのかいよう病, 9.16-カンキツの褐色腐敗病
沖縄	沖縄		7.7-カンキツ類のミカンハダニ

④野菜 (花き類を含む)	
北海道	6.22-アブラナ科野菜のコナガ
東北	青森 6.8-アブラナ科野菜のコナガ 岩手 6.2-アブラナ科野菜のコナガ 秋田 6.10-アブラナ科野菜のコナガ, 9.30-ネギのさび病
関東	神奈川 3.26-キャベツの灰色かび病, 7.29-スイカの炭そ病, つる枯病
東海	静岡 2.4-イチゴの灰色かび病
北陸	新潟 6.21-ネギのべと病
近畿	大阪 3.19-タマネギの白色疫病, 5.11-タマネギのべと病 兵庫 2.24-タマネギの白色疫病 和歌山 3.5-タマネギの白色疫病
中国	鳥取 6.30-スイカの疫病, 褐色腐敗病 山口 6.23-イチゴのうどんこ病, 9.7-イチゴのうどんこ病
徳島	4.15-ネギのさび病
香川	2.22-タマネギの白色疫病, 7.12-イチゴのうどんこ病
愛媛	2.3-タマネギの白色疫病, 7.5-イチゴのうどんこ病
九州	福岡 6.11-イチゴのうどんこ病, 7.9-野菜のママハモグリバエ 佐賀 2.2-タマネギのボトリチス葉枯症, 4.5-タマネギのネギアザミウマ, 5.6-イチゴのうどんこ病 長崎 6.2-イチゴのうどんこ病 熊本 6.14-イチゴのうどんこ病 大分 7.2-イチゴのうどんこ病 宮崎 1.27-イチゴのうどんこ病, 2.26-キュウリの褐斑病, 7.5-イチゴのうどんこ病 鹿児島 8.4-イチゴのうどんこ病 沖縄 2.3-キュウリのべと病

(2) 特殊報 (数字は発表月日)

	①普通作	②果樹	③野菜	④花き類
東北	宮城 福島	6.21-キウイフルーツのかいよう病初確認	3.16-イチゴの疫病初確認	
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 東京 長野	5.21-イネの紅変米多発 9.27-ブルーベリーの斑点病初確認	9.22-トマト, ガーベラのママハモグリバエ初確認 2.4-レタスのミカンキイロアザミウマ初確認 3.9-ミニトマトのママハモグリバエ初確認 6.16-パセリのうどんこ病発生拡大	9.22-バラのミカンキイロアザミウマ初確認 6.22-花き類のミカンキイロアザミウマ初確認 4.30-花き類のミカンキイロアザミウマ初確認 2.17-カーネーションの黒葉疫病初確認, 4.28-デルフィニウムの立枯病大規模発生
北陸	新潟	6.30-カキのカキクダアザミウマ初確認, 8.24-クリのハスオビキンモンホソガ被害初確認		
東海	岐阜 愛知 三重		2.25-ミニトマトのママハモグリバエ初確認 1.20-トマトのトマトサビダニ初確認	1.20-バラのミカンキイロアザミウマ初確認
近畿	京都 大阪 兵庫		6.25-ネギの黄斑病初確認 7.30-ナスのママハモグリバエ初確認 3.16-ミニトマトのママハモグリバエ初確認	
中国	岡山 広島	6.23-イネの褐条病初確認		8.3-カーネーションの黒葉疫病初確認, 9.3-トルコギキョウ, キクのミカンキイロアザミウマ初確認

山口 愛媛 四国 高知				6.7-カーネーションの黒葉渋病初確認, 9.2-トルコギキョウのえそ病初確認
			4.20-トマトのトマトサビダニ初確認	2.19-ソリダスターのママハモグリバエ初確認, 8.2-花き類のミカンキイロアザミウマ初確認
九 福 岡 熊 本  大 分  宮 崎  鹿 児 島	6.3-イネの褐条病初確認		7.7-ミニトマトのママハモグリバエ初確認 6.1-ミニトマトのトマトサビダニ初確認 4.30-キュウリの黒星病, 5.31-トマトのトマトサビダニ初確認, 6.8-ナスのママハモグリバエ初確認, 9.29-トマトの褐色輪紋病初確認 3.2-ダイコンのキタネグサレセンチュウ初確認, 7.19-ソラマメのクロスジヒメアツバ初確認	4.30-キクの半身萎ちょう病初確認, 5.31-ファレノプシスのオンシツケナガコナダニ初確認
	沖繩	6.14-パパイヤの輪点ウイルスパパイヤ系初確認		

IV 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施面積は、5,660千ha（対前年度比93.5%）で、前年度に比べ392千haの減少となった。

本事業の基幹である水稻部門は、本年の全国的ないもち病の多発生により、青森県を除く東北地方の5県112市町村で、152千haの緊急追加防除が行われたため、実施面積は1,597千ha（同108%）となった。

剤形別、散布方法別では、本年度は液剤の通常散布41.2%、同じく微量散布47.3%、同じく少量散布10.2%、微粒剤散布0.7%、粒剤散布0.6%の割合となった。

果樹部門は、リンゴの野そ駆除、クリの害虫防除など5.4千ha（同94.3%）であった。

畑作部門は、クワ、ムギ、ダイズ、サトウキビなどの害虫防除など24.7千ha（同89.9%）であった。

畜産部門は、牧野の施肥など、3.2千ha（同104.1%）であった。

ミバエ部門は、本年10月、沖縄県八重山群島を最後に日本全土からウリミバエが根絶されたため、その後の事業量の減少により、4,029千ha（同88.8%）であった。

平成3年度に水稻の病害虫防除において実用化された無人ヘリコプターは、本年度水稻37.8千ha、コムギ及びダイズ等0.2千ha、計38千haの防除実績となり、昨年度の約2倍の実績となった。

V 農薬の出荷状況

平成5農薬年度（平成4年10月～平成5年9月）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では3%増の490千t・kl、金額では2%増の4,160億円程度と推定される。

水稻用農薬は、本年のいもち病の全国的な多発生を反映し、数量、金額共に増加したが、果樹、野菜等の分野では減少した。

平成5農薬年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t, kl, 百万円, %）

用途		4年度出荷 (実績)	平成5年度（推定）	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	159,924	154,000	96
	金額	140,737	141,000	100
殺菌剤	数量	96,729	114,000	118
	金額	100,222	104,000	104
殺虫殺菌剤	数量	52,872	57,000	107
	金額	25,101	28,000	110
除草剤	数量	134,645	135,000	100
	金額	128,277	128,000	100
その他	数量	31,360	30,000	96
	金額	13,796	15,000	109
合計	数量	475,530	490,000	103
	金額	408,134	416,000	102